

| | | |
|--|-------|----------|
| | 場面 | 指導と評価の計画 |
| | 方法 | |
| | 態 | |
| | 思・判・表 | |
| | 知・技 | |
| | | 指導と評価の計画 |
| | | 指導と評価の計画 |
| | | 指導と評価の計画 |
| | | 指導と評価の計画 |
| | | 指導と評価の計画 |



こちらからダウンロードできます。

単元計画(指導と評価の計画)を作成する際に活用してください。

指導と評価の計画

令和4年3月 埼玉県教育委員会

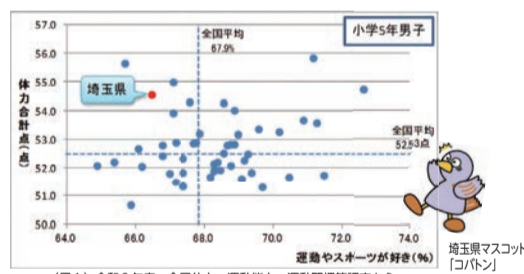
運動好きな児童生徒育成のために 小学校

I はじめに

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を見ると、本県児童生徒の体力合計点は高い水準であるものの、「運動やスポーツが好き」という項目においては、全国平均を下回っています。(図1)

体育・保健体育科の目標である「豊かなスポーツライフ」を実現するためには、運動好きな児童生徒を育成することは重要です。そこで埼玉県教育委員会では、運動好きな児童生徒育成推進委員会を設立し、運動好きな児童生徒の育成を図っていくこととしました。

運動好きな児童生徒を育成するためには、日々の体育・保健体育の授業の充実が不可欠です。そのため、令和3年度は主に単元計画(指導と評価の計画)の作成に視点を当てたリーフレットを作成しました。



(図1) 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

II 本リーフレットの活用にあたって

体育・保健体育の授業の充実を図るための視点として、令和2年度から全面実施となった学習指導要領(平成29年告示)では、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善が求められています。これらは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して授業改善を進めることが重要とされています。つまり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他なりません。

そこで、本リーフレットでは、単元計画を作成する際の考え方を示しました。年度初め、学期初め、単元開始前等に単元計画を作成する上での資料として活用してください。

III 単元を計画する前に確認しておくこと

運動の特性や魅力

- 主に機能的特性
(児童にとっての楽しさや喜びの視点を重視)

小学校学習指導要領解説体育編(平成29年7月)第2章第2節 各学年の目標及び内容に示されている各領域のリード文等を参考にしましょう。

目指すゴール像の設定

- 本単元を通して育てたい具体的な姿

資質・能力の三つの柱に基づいて設定します。

児童の実態把握

- 既習の学習内容及び定着状況

アンケートの実施やクラウド上のデータの整理等により実態を把握します。

体育科の目標は、低・中・高学年の三段階で示されています。小学校学習指導要領(平成29年告示)第9節 体育第2 各学年の目標及び内容を確認しましょう。

そして、

- 知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

の三つの柱で学習する内容や目指すゴール像を明確にします。



「いつ」「何を」（学習内容の明確化）「どのように」指導し、「いつ」「何を」「どのように」評価するのか（指導と評価の一体化）を明確にしましょう！

| | | |
|-------------|---|-------------------|
| 時間 | 1～X | |
| ねらい 指導内容 | 出会う (期待感や挑戦意欲をもつ) | 振り返る (伸びを実感する) |
| | 知って 考えて 高め合う (運動の行い方を知る・課題を把握して解決を図る) | |
| | 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 をバランスよく配置する | |
| 学習過程 | <p>学習の見通しをもつ</p> <p>【導入】 感覚づくりの運動をする 本時のねらいを確認する</p> <p>【展開】</p> <p>① 運動の行い方を知る</p> <p>② 課題を把握する</p> <p>③ 課題解決を図る</p> <p>④ 新たな課題に取り組む</p> <p>【整理】 本時の振り返り、まとめをする</p> <p>個別最適な学び・協働的な学び × ICT機器の活用</p> | |
| 評価計画 | <p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>態</p> <p>方法</p> <p>場面</p> | |

単元計画(指導と評価の計画)例 【高学年:跳び箱運動】

| | | | | | | | | | |
|------|---|--|---|---|--|---|---|---|--|
| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| ねらい | 跳び箱運動の学習の見通しをもとう。 | 伸膝台上前転のポイントを見付けよう。 | 伸膝台上前転ができるようになるための課題を見付け、練習する場を選ぼう。 | 技のポイントやコツを意識して、伸膝台上前転ができるようになるろう。 | はね跳びのポイントを見付けよう。 | はね跳びができるようになるために、自分の課題を見付け、練習する場を選ぼう。 | 技のポイントやコツを意識して自分のレベルに合ったはね跳びができるようになるろう。 | 友達と演技を見合い、気付いたことを伝え合おう。 | 学習の成果を発揮し、演技会に取り組もう。 |
| 指導内容 | ・学習の進め方、約束 ・試しの運動 | ・伸膝台上前転のポイント ・ポイントの見付け方 | ・自己の課題把握の仕方 ・課題解決のための場の選択 | ・課題解決のための練習 ・練習への取り組み方 | ・はね跳びのポイント ・ポイントの見付け方 | ・自己の課題把握の仕方 ・課題解決のための場の選択 | ・課題解決のための練習 ・練習への取り組み方 | ・演技会の仕方 ・課題解決のための学び合いの仕方 ・仲間との関わり方 | ・演技会の仕方 ・単元の振り返りの仕方 |
| 学習過程 | <p>1 集合、整列、挨拶、健康観察をする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>学習の見通しをもつ</p> <p>3 学習の進め方、約束を知る。 ・単元のゴール像 ・安全な行い方 ・学習カードの使い方等</p> <p>4 試しの運動をする。 ・易しい場 ・今できる力</p> <p>5 用具の片付けをする。</p> <p>6 本時の振り返り、まとめをする。</p> <p>7 整理運動をする。</p> <p>8 挨拶をする。</p> | <p>1 集合、整列、挨拶、健康観察をする。2 準備運動をする。3 場の準備をする。4 感覚づくりの運動をする。(腰上げ、マットからはね起き、アンテナブリッジ、ステージからはね跳び下り、エバーマットへの伸膝台上前転)</p> <p>5 本時のねらいを確認する。</p> <p>6 今できる技で演技タイムを行う。 ・単元後半の演技会に向け、今できる技で演技を行う。(習熟具合により途中で難度の高い技に変更してもよい)</p> <p>7 伸膝台上前転の動きを知る。 ・伸膝台上前転の動きのポイントを見付ける。</p> | <p>7 伸膝台上前転ができるようになるための課題を把握する。 ・自分の動きとよい動きを比べる。 ・自己の課題を把握する。 ・課題に応じた場を選んで練習する。</p> | <p>7 伸膝台上前転の練習をする。 ・自己の課題と技のポイントを確認しながら練習に取り組む。</p> | <p>7 はね跳びの動きを知る。 ・はね跳びの動きのポイントを見付ける。</p> | <p>7 はね跳びができるようになるための課題を把握する。 ・自分の動きとよい動きを比べる。 ・自己の課題を把握する。 ・課題に応じた場を選んで練習する。</p> | <p>7 はね跳びの練習をする。 ・自己の課題と技のポイントを確認しながら練習に取り組む。</p> | <p>6 今できる技を使って演技会に向けた練習をする。 ・互いに技を見合ったり、ICT機器を活用したりして、気付いたことを伝え合う。</p> <p>7 プレ演技会をする。 ・グループ内で演技をする。</p> | <p>5 本時のねらいを確認する。</p> <p>6 演技会をする。 ・グループごとに演技会を行う。 ・単元開始時の演技と比較する。</p> <p>7 単元の振り返りをする。 ・自己の変容 ・仲間の変容 ※育成を目指す 資質・能力の三つの柱に沿って振り返る</p> |
| | 個別最適な学び・協働的な学び × ICT機器の活用 | | | | | | | | |
| 評価計画 | 知・技 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| | 思・判・表 | | ○ | | | ○ | | ○ | |
| | 態 | ※① | | ○ | | | ○ | | ○ |
| | 方法 | 観察 | 観察・学習カード | 観察・学習カード | 観察・学習カード・ICT機器 | 観察・学習カード | 観察・学習カード | 観察・学習カード・ICT機器 | 観察・学習カード |
| | 場面 | 3,4,5 | 7,9 | 7,9 | 7 | 7,9 | 7,9 | 7 | 6,7 |

※評価計画の○には「単元の評価規準」の番号を記します。